

七宗製品事業所における有利販売への取り組み (商品価値を配慮した材の取扱いについて)

下呂営林署 七宗製品事業所 伊藤 納

1. はじめに

七宗製品事業所は、「色・艶・香り」をほこる東濃ヒノキを主体に、七宗国有林の材はすべて、山元で販売しており、用材については山元土場で巻立、極積を行って販売している。

七宗国有林は気象、土壌条件がヒノキの生育に適しており、ここでは良質の柱材を主体に生産している。このような材を生産、販売するにあたって、市況動向を迅速に反映し、厳正な材質管理を行って有利採材、有利販売に、積極的に取り組んできたところである。

しかし、過去には土場の立地条件、気象条件や、伐倒から集材迄の期間が長かったために、材に虫が入ったり、かび、変色による劣材があった。特に、昨年度は異常気象の影響もあり、このことが顕著に現われた。当事業所の昨年度、用材の販売量に対して劣材割引をした割合は、変色青変菌が9%、虫害が0.8%であった。

今回、その対策として、新鮮材供給のための作業段取りをさらに検討し、又極積方法、薬剤散布方法等、材質の低下を防止する材質管理を実行したのでここに報告する。

2. 内 容

- (1) 梅雨期に生産休止することを条件に、請負契約を締結した。(図-1)

62年度は、梅雨時にも伐倒集材を実行したが、63年度は、完全に生産休止をした。

- (2) 梅雨期以外でも、伐倒から集材までの期間を短かくする、作業段取を取った。

63年度は、62年度より、伐倒から集材までの期間が短かくなっており、新鮮材の供給ができたといえる。(図-2)

集材現場では生産期間の短縮に努めたが、現段階の販売のシステムを、公売材でみると、生産完了から引渡しまで、半月から1ヶ月半近くの日数が必要であるため、山元工場では、「商品」としての、素材の材質管理が、必要となってくる。その方法として

- (1) かびの、発生を防ぐため、通気性をよくした。

従来は、極の枕木が低かったため、通気性が悪く、かび、変色、虫害がおきやすかったため、カラマツ材を利用して、地表より20cm～30cmの空間を作った。

(2) 害虫の種類とその生態を調べ、被害予防と駆除を行った。

七宗山元土場に見られる、穿孔性害虫の種類と生態は(表-1)のとおりである。

① カミキリ虫類

コマダラカミキリ、スジカミキリ、ヒメスジカミキリ、ムナクボカミキリ

樹皮に噛み傷を作って産卵し、幼虫は樹皮下で成育し、林内に穿入し蛹室を作り、成虫となり材から出てゆく。

② ソウ虫類

マツキボゾウムシ、オオゾウムシ、シラホシゾウムシ

口吻で樹皮に小孔をつくり、そこに産卵することが多く、幼虫は樹皮下で主として内皮部を摂食して成育し、成虫となって外部へ脱出する。

③ キクイムシ類

キイロコキクイムシ、ヤツバキクイムシ、ヒバノキクイムシ、サクセスキクイムシ

成虫が樹皮下または林内に孔道をつくり、産卵し孵化した幼虫は、それぞれ樹皮下を別個に食い進み蛹化する。羽化成虫は、樹皮下を再び食害し、その後外へ脱出する。孔道壁には青変菌やアンブロシア菌の寄生を伴うことがある。穿孔が早いので、最も注意を要する。

4月より発生する害虫が多いため、山元土場において常に予察を実行し、予防のため、スミパイン乳剤を、検知終了後に動力自動噴霧器により、随時散布した。梅雨時には薬剤の効果を充分いかすため、予察の実行を徹底して行い、気象条件も考えながら適時期に散布したり、完了椋にも再度散布した。

(3) 完了椋について、再度散布を行う場合、薬剤がすみずみ迄いきわたるよう、ノズルの先の改良を行った。

従来のものは、2mの長さの竹の竿の先に、ノズルを取り付けたもので散布していた。吹付方向が固定されているため、あつかいづらく、すみずみ迄散布するには、薬剤も外へ飛散するのを防ぐことができず、経済的にも問題があったため、ノズルの先を可変式にしたことにより、より効果的な散布ができるようになった。

3. 結 果

(1) 新鮮材供給ということで人気もよく有利に販売できたと考えている。

(2) 椋の枕木を高くして通気性を持たせることにより、かび、変色は、ほとんどなくなった。地面と商品にかなりすき間があることで、視覚的にいい商品だという印象をお客様に与え、二重の効果も上がった。

(3) 薬剤もすみずみ迄いきわたり、害虫による被害も防ぐことができた。

62年に比べ、63年度は劣材割引をした量、割合が少ないことで以上が、実証されたと考えている。(表-2)

(4) 薬剤散布後の商品は2・3日経過すると、茶褐色となるが、お客様からは材質管理が徹底していると、信頼された。

以上のように、材質管理を実行したことにより、丸太は商品であるという認識がさらに職場の中に浸透し、有利販売に繋ぐことができたと考えている。

4. おわりに

生産事業を実行する者として、今後も、生産性の向上はもとより、生産から販売まで、商品価値を損うことのない、地道な最大限の努力を続けていく覚悟である。

図-1 事業期間対比表

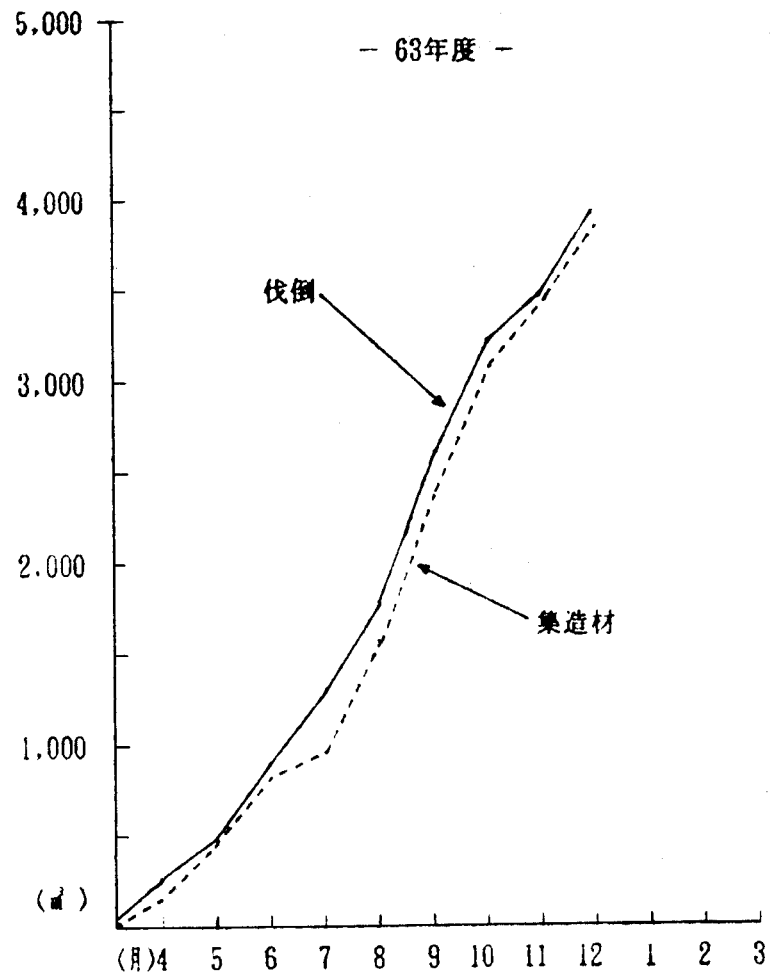
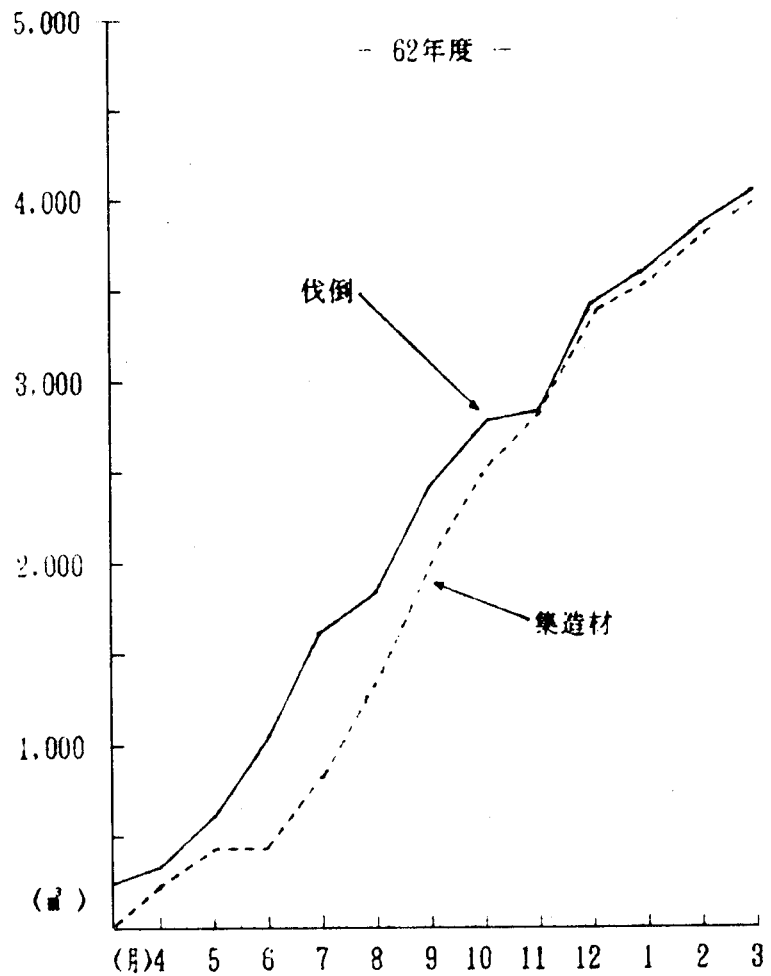
— 62年度 —

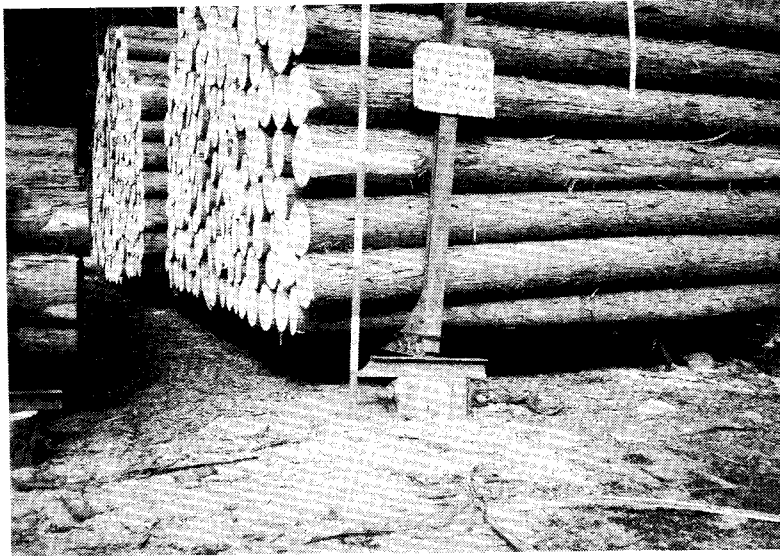
	林班	数量	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
直	233	2760	←————→											
	104	1120	←————→											
請	235	830	←————→											
	207	400	←————→											

— 63年度 —

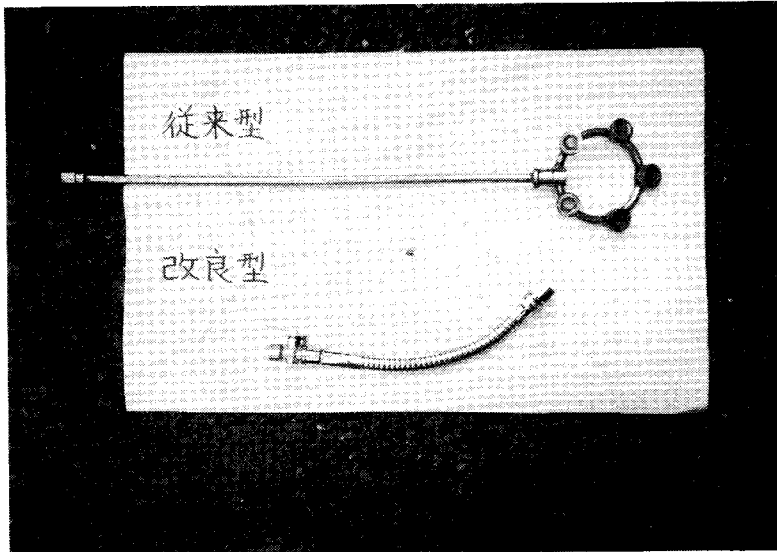
	林班	数量	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
直	233	630	←————→											
	104	860	←————→											
請	232	1770	←————→											
	93	1950	←————→											
負	206	1380	←————→											

図-2 作業進行図





カラマツ材を利用した枕木



ノズルの先の改良

表-1 七宗山元土場にみられる穿孔性害虫

類 別	種 類	成 虫 の 発 生 時 期	産 卵 期
カミキリムシ類	ゴマダラカミキリ	6 ~ 8 月(2年に1回)	6 ~ 8 月
	スギカミキリ	4 ~ 5 月	4 ~ 5 月
	ヒメスギカミキリ	4 ~ 6 月	4 ~ 6 月
	ムナクボカミキリ	7 ~ 9 月	7 ~ 9 月
ゾウムシ類	マツキボゾウムシ	3 ~ 4 月	3 ~ 4 月
	オオゾウムシ	4 ~ 5 月	4 ~ 5 月
	シラホシゾウムシ	4 ~ 10 月	6 ~ 8 月
キクイムシ類	キイロコキクイムシ	4 ~ 5 月(年3回)	4 ~ 5 月
	ヤツバキクイムシ	5 月・9 月(年2回)	5 月・9 月
	ヒバノキクイムシ	4 ~ 5 月	4 ~ 5 月
	サクセスキクイムシ	5 ~ 6 月(年2回)	5 ~ 6 月

表-2 販売量に対する劣材の割合

